

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

宇和島市

愛媛県

1. 当該地域の情報 (2020年3月現在)

地域の課題	本市を中心とした四国西南部の宇和島圏域は日本語教室空白地域であり、特徴としては他市町と比較して国際結婚による配偶者の割合が高いことが挙げられる。また技能実習生は増加傾向であり、それは本市だけではなく周辺自治体においても同様である。しかしながら、周辺自治体も含めて外国人の就業、社会参加、コミュニティの形成、教育などの様々な体制が整っていない。 また、今年度本市で実施した座談会などにおいて、参加した在住外国人からは日本語教室の開催希望が強く寄せられたほか、集う場や情報交換の場、活躍する場がないことが課題として挙げられた。 今後増加が予想される在住外国人の生活支援においても、日本語教室が様々なハブ的存在となって展開させていく必要がある。
在住外国人数 外国人比率	0.5% (宇和島市人口 75,143人 外国人 379人)
在留外国人の 状況	【主な国籍】 ベトナム113人(29.82%)、フィリピン86人(22.69%)、中国74人(19.53%)、韓国30人(7.92%)、インドネシア24人(6.33%)、カンボジア18人(4.75%)、タイ10人(2.64%)、米国7人(1.85%)、台湾4人(1.06%)、ミャンマー2人(0.53%)。 【在留資格】 技能実習2号口124人(32.72%)、永住者78人(20.58%)、技能実習1号口61人(16.09%)、日本人の配偶者等35人(9.23%)、特別永住者23人(6.07%)、定住者18人(4.75%)、技術・人文知識・国際業務14人(3.69%)、教育6人(1.58%)、家族滞在6人(1.58%)、技能実習2号イ6人(1.58%)
在住外国人の 日本語教育の現状	愛媛県国際交流協会の事業として平成14年に宇和島市において日本語ボランティア養成講座を実施。その受講生により民間団体を立ち上げて日本語教室の開講があったが、年に数回の実施のみで結果的に継続しなかった。 現在、愛媛JASL(日本語学習支援ボランティア団体)のメンバーが個人的に松山市から週2回程度、ALT数名に日本語を教えに来ている。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	宇和島市を外国人が住みやすいまちにすることが最大の目的であり、在住外国人の就業や社会参加など、日本語教育のみならず教室を通じて発展的な展開を目指す。当該地域の在住外国人の拠り所として日本語教室が存在し、それをきっかけに就業や教育、社会参加や外国人コミュニティの形成など、在住外国人の様々な課題に対しても良好なアプローチを図ることが可能になるのではないかと考え、本プログラムの実施により日本語教育のみならず在住外国人が住みやすいまちづくり、多文化共生の地域づくりの実現を目的とする。			
事業の概要	本市を中心とした四国西南部の宇和島圏域は日本語教室空白地域であり、周辺自治体も含めて外国人の就業、社会参加、コミュニティの形成、教育などの様々な体制が整っていない。 本市の在住外国人が地域社会においてストレスなく、また地域住民との良好な関係を築いて生活していくためには「日本語の習得とコミュニケーション」が重要であり必要不可欠であるが、当該地域には日本語を教える人材、ノウハウ、手段などが不足しており、継続的な日本語教室が展開できていない状況である。 本プログラムの実施により、在住外国人のニーズ調査や教室の運営の方法、日本語教育の内容や教育プログラムの作成など具体的な手法についてアドバイザーを交えて共に協議し、ノウハウを得て、体制を構築していくなど効果的な課題解決に取り組み、教室設置及び運営など将来的に継続できるよう展開していく。 また、宇和島市の周辺自治体にも日本語教室がない状況である。周辺自治体へも波及、展開できるようなスキームにしていく。			
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	—			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	高橋 志野	愛媛大学国際連携推進機構	准教授	指導者等の人材育成、研修企画実施
	深田 絵里	愛媛大学国際連携推進機構	非常勤講師	指導者等の人材育成、研修企画実施
	村上 将司	宇和島市役所商工観光課	主任	学習ニーズの把握、住民への意識啓発
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	にんじんランゲージスクール	校長	継続(新規)(1年目)
	犬飼 康弘	公益財団法人ひろしま国際センター	日本語常勤講師	継続(新規)(1年目)
	御館 久里恵	鳥取大学教育支援・国際交流推進機構国際交流センター	准教授	継続(新規)(1年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	<p>日本語教育に関する助言等、講座運営に関する助言等:新矢 麻紀子(大阪産業大学)、向井 留実子(東京大学)、棚田 洋平(一般社団法人部落解放・人権研究所) →これまでの経験や他地域の事例等を用い、アドバイザーとの相談も踏まえながら今年度の取り組みや日本語教育、運営について助言を受けた。</p> <p>生活に関わる日本語教室の内容に関する助言等:伊藤 優子(愛媛県国際交流協会) →愛媛県内の外国人の動向、統計等を把握し、県内の日本語教室や生活相談の状況などを踏まえた助言、展開の方策などの助言を受けた。</p> <p>日本語教育検討の会議体:金瀬 聡(宇和島市教育委員会)、水野 宏一(宇和島市産業経済部商工観光課) →会議体を形成するにあたり継続的及び発展的な体制を構築する必要があり、市関係各課を参画させた。市長部局だけではなく教育委員会部局も参画させ、勉強会への参加や情報共有を図った。</p>		
所属(担当課)	担当者名	職名	
大阪産業大学	新矢 麻紀子	国際学部 教授	
東京大学	向井 留実子	次世代人文学開発センター 教授	
一般社団法人部落解放・人権研究所	棚田 洋平	事務局長	
公益財団法人愛媛県国際交流協会	伊藤 優子	副課長	
宇和島市教育委員会	金瀬 聡	教育長	
宇和島市産業経済部商工観光課	水野 宏一	課長	

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	<p>全体コーディネーター:高橋 志野(愛媛大学国際連携推進機構)、深田 絵里(愛媛大学国際連携推進機構) →経験や知見をいただきながら事務局と連携し、担当コーディネーターとしてプログラム展開を行った。知見を持ったコーディネーターを配置することで、日本語教室設置に向けた事業計画や展開方法などについて効果的に取り組んでいった。</p> <p>在住外国人の状況把握、連絡調整:申 繁時(カトリック宇和島教会)、王 姿研(宇和島市役所吉田支所) →市内在住外国人の拠り所のひとつとして機能しており、生活実態、ニーズ調査及び講座への参加連絡等、本プログラムの橋渡し役として協力していただくことでスムーズな事業実施が可能となった。フォローアップも対応していただき、次につなげることができている。</p> <p>日本語ボランティアの発掘、育成:池田 多津子(吉田町国際交流協会)、川口 晴代(NPO法人ピースメーカーUWAJIMA)、瀬川 みどり(愛媛SGGクラブ) →情報共有を図る勉強会からボランティア養成講座まで、メンバーの積極的な参加のほか、多方面への呼びかけに協力していただいたことで多くの参加を得ることができた。</p>			
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名	
愛媛大学	国際連携推進機構	准教授	高橋 志野	
愛媛大学	国際連携推進機構	講師	深田 絵里	
吉田町国際交流協会		会長	池田 多津子	
NPO法人ピースメーカーUWAJIMA		代表	川口 晴代	
カトリック宇和島教会		神父	申 繁時	
宇和島市役所吉田支所	総務係	国際交流員	王 姿研	
愛媛SGGクラブ	宇和島支部	代表	瀬川 みどり	

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月			
2019年 5月	○キックオフ会議 ○宇和島市内において関係各所への訪問及び意見交換	○キックオフ会議 ○宇和島市内において関係各所への訪問及び意見交換	★キックオフ会議 ★宇和島市内において関係各所への訪問及び意見交換 山田シニアアドバイザー 犬飼アドバイザー
2019年 6月		○外国人住民へのアンケート作成に関する打ち合わせ	
2019年 7月	○「生活者としての外国人」に関する勉強会の開催 参加者 41名 (市長、副市長、教育長、市議会議員など市幹部のほか、技能実習生受入事業所、NPO団体等の出席)	○「生活者としての外国人」に関する勉強会 ○外国人住民へのアンケート作成に関する打ち合わせ	★「生活者としての外国人」に関する勉強会 講師 山田シニアアドバイザー 犬飼アドバイザー
2019年 8月		○外国人住民へのアンケート、Webアンケートの作成に関する打ち合わせ	
2019年 9月		○外国人住民へのアンケート、Webアンケートの作成に関する打ち合わせ、翻訳作業 ○「文化庁日本語教育大会・東京大会」出席	
2019年 10月	○「宇和島市在住外国人の日本語学習に関するアンケート調査」発送・回収 379名に発送し、104名の回答。	○スタートアッププログラム情報交換会出席	
2019年 11月		○スタートアップ講座の打ち合わせ ○外国人住民へのアンケート、Webアンケートの集計	
2019年 12月	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第1回の開催 参加者 20名 (情報共有、日本語ボランティアチームビルディング など)	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第1回準備及び開催	★「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第1回 講師 山田シニアアドバイザー 犬飼アドバイザー 御館アドバイザー
2020年 1月	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第2回の開催 参加者 28名 (やさしい日本語とは、地域日本語教室とは など)	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第2回準備及び開催	★「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第2回 講師 犬飼アドバイザー 御館アドバイザー
2020年 2月	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第3回の開催 参加者 31名 (外国人住民の声を聴く など)	○「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第3回準備及び開催 ○今年度の振り返り、課題確認、次年度以降の取り組みに関する協議	★「外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座」第3回 講師 犬飼アドバイザー 御館アドバイザー
2020年 3月			

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
「生活者としての外国人」に関する勉強会の開催	2019年7月26日	市長、副市長、教育長、所管部長、庁内関係部署、市議会議員、技能実習生受入事業所、NPO団体等が参集し、アドバイザーを講師に勉強会を開催。現状の把握と目指す姿の共通認識を図ることができ、施策を推進できる環境となった。
外国人との共生社会に踏み出す宇和島 スタートアップ講座	2019年12月～2020年2月 (全3回)	日本語教室設置に取り組むにあたり日本語ボランティア候補の市民に参加していただき、基本的な考え方ややさしい日本語、外国人住民の声を聴くことなど、アドバイザーに講師を依頼して育成講座を開催した。 【内容】(全3回、1回2時間) 第1回 地域の外国人の現状、多文化共生社会について 第2回 地域日本語教室、やさしい日本語について 第3回 外国人市民の声を聴こう

【主な活動】



外国人との共生社会に踏み出す宇和島
スタートアップ講座 チラシ



スタートアップ講座 第1回目



スタートアップ講座 第3回目

5. 今年度事業全体について

進捗状況	事業については概ね計画どおり実施することができた。 連絡や情報共有については適宜メールにて行い、コーディネーター間のミーティングはWeb会議なども活用して実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○7月の勉強会開催により、多文化共生社会や地域日本語教室の必要性について共通認識を図ることができ、情報の整理と市が今後目指す姿を共有することができた。 ○在住外国人向けアンケートを実施したことで、日本語教室だけではなく集まる場ややりたいことのニーズを収集することができた。また、回答率は約30%と予想よりも多く、関心が高いことも把握できた。 ○全3回の講座についても想定よりも多く、また回を重ねるごとに参加者数も増え、好評であった。内容についても講師を務めていただいたアドバイザーのファシリテートにより学びが多く、次につながる場であった。
地域の関係者との連携による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターを務めていただいた愛媛大学の准教授及び講師のサポートや、そのネットワークを活用した全体的なバックアップにより年間通してスムーズな事業実施が可能となった。 ○市内の国際交流団体や理解のある技能実習生受入事業所の協力により、勉強会や講座を上手に展開することができた。
コーディネーターの主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ①ニーズの調査(48.5H) ②体制整備のための調整(20.5H) ③人材育成のための調整(29H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(0H) ⑤教材作成に向けた調整(24H)
アドバイザーの主な助言	<ul style="list-style-type: none"> ○制度やシステムを整えるだけでなく、受け入れる側の意識改革が何よりも大切である。啓発は大変重要。 ○市はどういった多文化共生の地域づくりを目指すのか、それをはっきりさせなければならない。 ○日本語教室は「学校」ではなく、教える側も教えられる側も対等な場として機能させる必要がある。 ○日本語ボランティアに頼るだけでは続かない。持続可能にしていくためには、市や国際交流協会などの「事務局」「後ろ盾」が必須。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語ボランティアの発掘と育成を上手く展開できるかどうか。 ○持続可能な形での教室運営について、人材面、予算面できちんと構築できるかどうか。
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ○技能実習生受入事業所へのヒアリング調査及び日本語教室の啓発と協力依頼。 ○持続可能な教室運営体制の構築。 ○地域日本語教室の試行。 ○先進地視察によりコーディネーターの知識を深め、他地域との良好なネットワークの構築。 ○日本人と外国人とが交流する機会の創出。 ○日本語ボランティアの発掘及び育成。

本件担当 : 宇和島市役所産業経済部商工観光課 観光係